

生き物のからだのつくり

### ■動物と植物

みなさんは動物というと、イヌやネコを思いうかべるでしょう。しかし科学のことばでは、もっと広い意味で動物ということばを使います。

じぶんで動いてえさをつかまえる生き物は、みんな動物です。ゾウやキリンなどの大きな生き物から、スズメやハトなどの鳥、魚や貝、こんちゅうなどの虫、カニやエビ、小さなダニ、みんな動物です。



アリも「動物」です。

動物とちがって、植物は、じぶんでは動かずそこにじっとして、空気と水と太陽の光で、じぶんが育つためのえいようを作ります。アサガオ、ヒマワリなどのみどり色の生き物が植物です。

### ■動物でも植物でもない生き物

このほかに、生き物には、動物でも植物でもないものがあります。たとえば菌類と言われるものたちです。菌類の中でもみなさんがよく見るものは、きのこです。

シイタケ、ナメコなどきのこは動物でも植物でもありません。



きのこは、動物でも植物でもありません

### ■魚もヒトも、同じ種類の動物

魚とヒトは、大きさもすがたかたちもまるつきりちがいます。しかし、その体のしくみは思ったよりもよく似ています。魚にはヒトと同じように、目・鼻・口、脳・胃ぶくろ・心ぞう・せぼね・筋肉があります。ここでたいせつなのは、魚にもヒトにもせぼねがあるということです。(こんちゅうはからだの外がかたく、せぼねがありません)。

せぼねがある動物を「セキツイ動物」と言い、動物をまとめてぶんるいすることができます。せぼねがある動物(魚・ヒト・イヌ・ネコ)は、おたがい見ためはずいぶんちがいますが、中身はけっこう似ています。

今日は、せぼねがある、にぼし(カタクチイワシ)の体のつくりとしくみを見てみましょう。

## ■ にぼしの解剖のやりかた

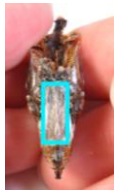
0) にぼしはこわれやすいので、つくえの上に白い紙をしいておくこと！

1) 頭を取りはずす

白い紙の上ではずそう。はずすとき、何かが落ちたら捨てずに取っておこう。



2) 頭を開く



頭のとっぺんの平らになっているところにツメを当てて、左右に開いてみる。

頭に見えるもの：ずがい骨・脳 (ちやいろで少しやわらかい)・水晶体(目の玉)・「さいは(白色)」と「えら(赤ちや色)」。



えらとどうたいのあいだにある、三角(△)のかたちをした黒いものが心ぞう。頭をはずすときに取れてしまうことも多い。



3) どうたいを開く

どうたいのせなかにツメを当てて、頭と同じように開く。急いでやるとこわれやすいので、ゆっくりやろう。



かんぞうはおなかの中にある、まっ黒なかたまり。



胃は、ちやいろでまるみがある。かんぞうの中に埋もれていることが多いので、かんぞうを割ってみると出てくる。

おなかに、たらこみたいなのがあれば卵巣(メス)、つるつるしたふちがうすいものが精巣(オス)。

ふだんわたしたちが食べている「魚の身」のぶぶんが、筋肉です。

